

臨床研究の実施に関する情報公開

静岡県立総合病院では、臨床研究倫理委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

本研究について	<p>本研究は、静岡県国民健康保険団体連合会が市町国民健康保険および後期高齢者保険加入者の方の特定健診受診結果、医療レセプト、介護保険審査データを突合して、匿名化处理をした上で静岡県立総合病院に提供した資料を用いて行います。</p> <p>研究対象者に対して、利用目的を含む本研究についての情報を静岡県立総合病院・静岡県国民健康保険団体連合会・静岡県のホームページ上に公開します。</p>
研究課題名	静岡県市町国民健康保険および後期高齢者保険加入者のデータベースによる医学的エビデンスの創出のための解析研究 -レセプトデータ等を用いた高齢者のフレイル測定ならびに評価指標と薬剤使用実態や臨床アウトカムとの関連に関する研究-
研究機関名	静岡県立総合病院
研究責任者	リサーチサポートセンター 主任研究員 (慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室) 宮田 裕章
研究期間	2020年5月29日から2024年3月
対象者	2012年度以降に静岡県内で市町国民健康保険加入者、後期高齢者保険加入者あるいは介護保険加入者の方
当該研究の意義・目的	<p>日本は世界で一番の高齢社会とされています。加齢とともに心身の活力（運動機能、認知機能など）が低下して、生活機能に不便をきたす状態をフレイルと呼びますが、高齢社会の中でフレイルをよく理解し、健康改善に働きかけることは喫緊の課題の一つとなっています。フレイルは可逆的な状態で、適切な支援を行うことで生活機能の向上が可能であると考えられています。これまでに運動機能や認知機能を直接評価尺度と照らし合わせてフレイルの測定を行ってきましたが、測定にかかるコストは少なくありませんでした。</p> <p>このような背景の中、診療・介護情報を含む医事・介護の請求データ(レセプトデータ)を用いたフレイルのリスクスコアの算出が提唱され、フレイルの測定や、フレイルと予後との関連の評価を比較的大規模に、低コストで行えるようになりました。しかしながら、日本においてレセプトデータを用いたフレイルの実態の調査やフレイルと治療との関連に関する研究は未だ少なく、大規模データでの評価が必要とされています。今回の研究では、静岡県の国民健康保険ならびに後期高齢者医療制度加入者の医療や介護のレセプトデータ、健診データを用いて、①心房細動の診断を受けた方、②75歳以上の高齢者、③心不全で入院した方における、フレイルの測定や妥</p>

	<p>当性の検証、治療薬選択とフレイルとの関連及びフレイルと健康アウトカム・疾患予後との関連の評価を行います。これらの評価を通じて、静岡県におけるフレイル患者への早期段階での適切な介入支援、投薬計画の策定につながるエビデンスを創出、それが実臨床へフィードバックされることを期待しています。</p>
<p>方法および研究で利用する試料・情報について</p>	<p>静岡県国民健康保険団体連合会からハードディスクに保存して提供された 2012 年度以降の静岡州市町国民健康保険加入者および後期高齢者保険加入者の匿名化された健診結果、医療レセプトデータ、介護保険データを用いて、当院リサーチサポートセンター及び東京大学、慶應義塾大学において解析を行います。なお、データは研究対象者個人を直接特定できる情報を取り除いた状態で研究に利用されます。</p>
<p>個人情報の開示に係る手続き</p>	<p>個人情報の開示に係る手続きは、下記の間合せ先にご相談ください。</p>
<p>資料の閲覧について</p>	<p>あなたからのご要望があれば、この研究において開示が可能であると考えられる範囲内で、この研究の計画や方法についての資料をご覧いただくことができます。</p>
<p>間合せ先</p>	<p>◆その他、この研究に関するお問い合わせ、苦情等ございましたら下記へご連絡ください。 静岡県立総合病院 リサーチサポートセンター 代表 054-247-6111</p>